

Let's Enjoy!

若い力でワクワクするまちづくり



やすらぎを感じるまち



良い意味で
田舎を感じるまち



夜空がきれいなまち

当初昨年10月に設置予定であったモザイクアート
(1,224枚の色紙でハロウインの絵が完成)

事故が起こらないまち!

いろんな人が
笑いあえるまち!



みんなが未来を
楽しめるまち!

緑がいっぱいのまち!

みんなが元気に
暮らせるまち!

プロジェクトの中心メンバーである生徒(左から齋藤舞(さいとうまい)さん、加藤賢一(かとうけんいち)さん、村井明花音(むらいあかね)さん)

1,224枚の想いをひとつに ~ワクワクできるまちへ~

大学や就職などで甲賀市を離れてしまう若者が多い中、
中学生自らがまちづくりに関わろうと取り組む甲南第一自治振興会を取材しました。

若い時に地域とのつながりをもつことで、甲賀市を好きになる、将来も住み続けたいと思える、そんな魅力的なまちを自分たちの手で創りたい、そんな想いで立ち上がった「学区イベントプロジェクトチーム」。

20代の若者を含む7人が進めるこのプロジェクトでは中学生が中心となり活動が進められています。集客イベントが難しい中、企画第1弾として小さな色紙を貼り合わせ1枚の絵を描く「モザイクアート」を駅舎が新しくなったJR甲南駅に展示しようというアイデアが発案されました。

小さな色紙には地域が魅力的で住みやすいまちであって欲しいと願い、学区内の甲南第一小学校、甲南中学校の児童、生徒約1,000人に「将来のまちに関するワクワクすること」を色紙に書いてもらうよう学校に依頼し実現しました。

完成したモザイクアートは昨年11月22日(月)から28日(日)までの間展示され、駅を利用される方々をはじめ、地域の方々にもアピールされました。



次はマルシェを開きたい

自らの意思で積極的にプロジェクトに携わった3人の中学生に思いをお聞きしました。

若者が甲賀市から離れてしまうことについては、
「楽しいものが少ないと甲賀市から離れてしまうという気持ちはわかりますし、仕事のために甲賀市を離れてしまう必要もあると思います。そこで仕事したいということではなく、その仕事ができるかということが重要なのではないのでしょうか。」

プロジェクトに参加したことについては、
「学校の生徒会に関わった経験から、生徒会以外の場でもいろいろなことをやってみたいと思ったのがきっかけです。また地域に関わるのは楽しそうだし、役にも立てるかなと思いつきました。大人の方と地域を盛り上げるために意見を交わすのは楽しいです。このアートは第1弾ですが、第2弾ではマルシェを開きたいと考えています。第3弾、第4弾もこれから考えていきたいです。」とすでに次の構想も頭の中にあるということで、これからの甲賀市を担う若く頼もしい姿に出会うことができました。

今だからこそ見つかる

「新しい豊かさ」

皆さんは「豊かさ」という言葉にどのようなことを思い浮かべますか。

お金や物に不自由なく暮らせること、車がなくても近くのお店で何でも買えること、また健康であり、家族が仲良く暮らすことといった心の豊かさもあると思います。

コロナ禍で新しい価値観が生まれ、生活スタイルなどが足早に変化しましたが、そんな時だからこそ、いつもの暮らしの中に実は素敵で大切なものがあつたんだと気づかされることもあるのではないのでしょうか。

そこに住み続けているからわかる良さ、移住してきたからこそわかる良さを見つめてみる、自分のできることを考えて、新しいことに挑戦してみる、こうした活動の中で心の充実感が味わえる暮らしも豊かさの一つだと思えます。

自然と調和のとれたまち、誰一人取り残さないみんなの居場所があるまち、若者たちが挑戦できるまち、そんないつもの暮らしの中にこそ「新しい豊かさ」が生まれる甲賀市をみんなで考えていきたいですね。